

「誓願」は、誓い、願うと書いて「せいがん」と読みます。自らすすんで誓いを立て、願いを掛ける行いのことです。

私たちの生活の中には、「あんなったらよい、こうあってほしい」と、たくさん願いを掛ける行いがあります。自分自身に暗示をかけたり、自分の好きなものを断つということも、珍しいことではありません。その願いの内容も、自分自身の幸福を願うことから始まり、より広がって身近な家族や周囲の人のこと、さらに広がってこの国のこと、そして世界のことと、その願いは広がり、その思いも深くなっていきます。私たちの立てる願いは、たとえどんなに大きくなっていったとしても、私たち自身の幸福を中心に同心円状にひろがっていくものです。

仏教には、より広く大きな誓願があります。「弘誓」(ぐせい)という誓願です。弘誓は、菩薩の誓願であり、弘く衆生、つまり私たちがお悟りに届くことを願うものです。

曹洞宗で唱えられる「弘誓」に、『四弘誓願文』(しぐせいがんもん)があります。これは、四つの誓願から成り立っています。

一つ目は、「衆生無辺誓願度(しゅじょうむへんせいがんど)」。限りない生きとし生けるものを、お悟りの境地に度すことを誓って願う。

二つ目は、「煩惱無尽誓願断(ぼんのうむじんせいがんだん)」。尽きることのない煩惱を、誓って断ぜんことを願う。

三つ目は、「法門無量誓願学(ほうもんむりょうせいがんがく)」。はかり知れない仏の教えを、誓って学ばんことを願う。

四つ目は、「仏道無上誓願成(ぶつどうむじょうせいがんじょう)」。この上ない仏の道を、誓って成就せんことを願う。

曹洞宗では主に、おつとめの最後にこの誓願をお唱えします。

菩薩の誓願であるこの『四弘誓願文』を、衆生である私たちが、日々お唱えするので。

この菩薩の誓願を自ら進んで誓い願うことにより、私たち自身の幸福を求める生き方のみならず、自分以外のありとあらゆる生きとし生けるものの幸福をも願うという菩薩の生き方に近づけることが出来るのではないのでしょうか？